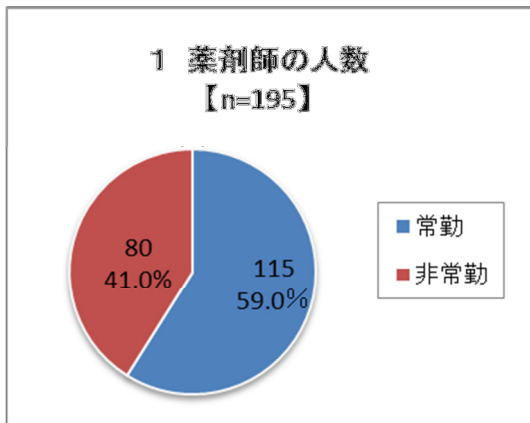


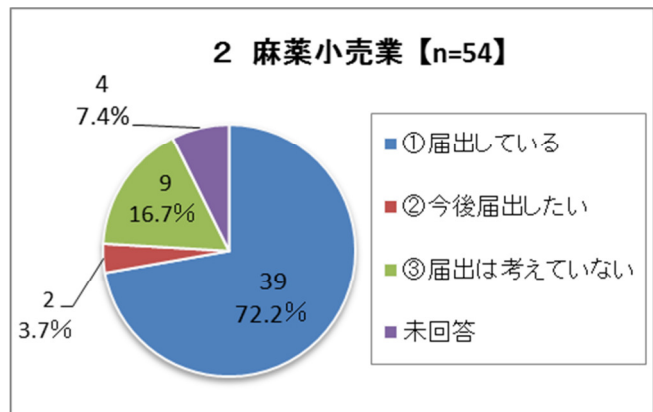
(4) 在宅患者訪問薬剤管理指導薬局(54力所)

1 薬剤師の人数



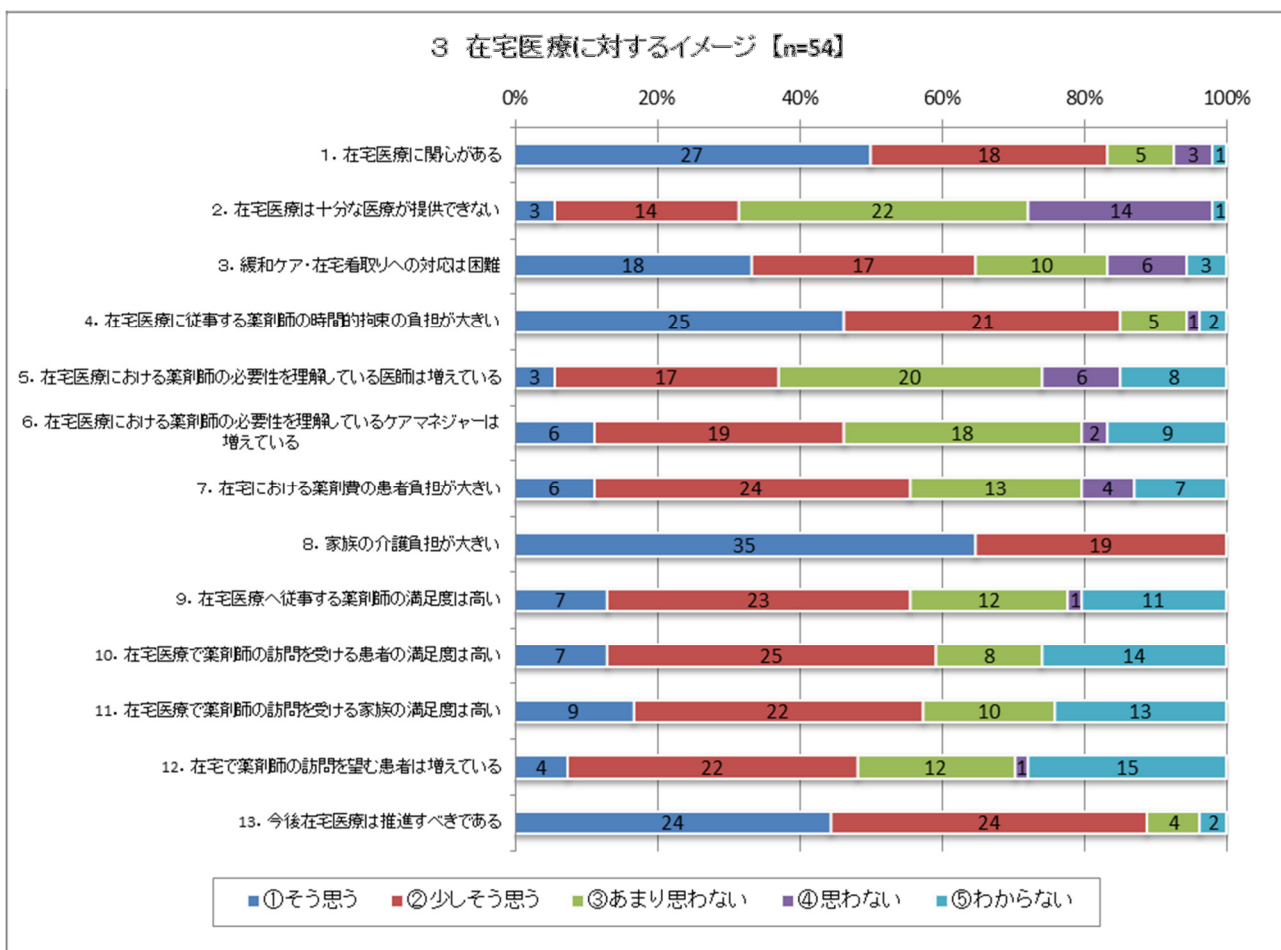
薬剤師は、常勤 115 人(59.0%)、非常勤 80 人(41.0%)であった。

2 麻薬小売業免許について



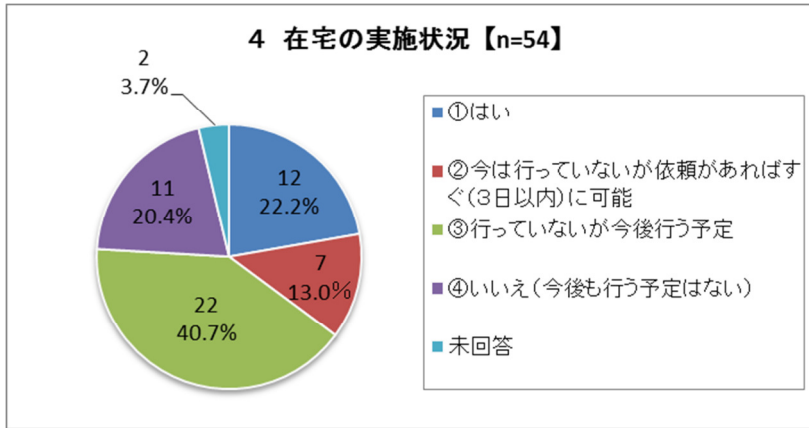
麻薬小売業の届出については、39 件(72.2%)が免許を取得していた。

3 在宅医療に対するイメージ



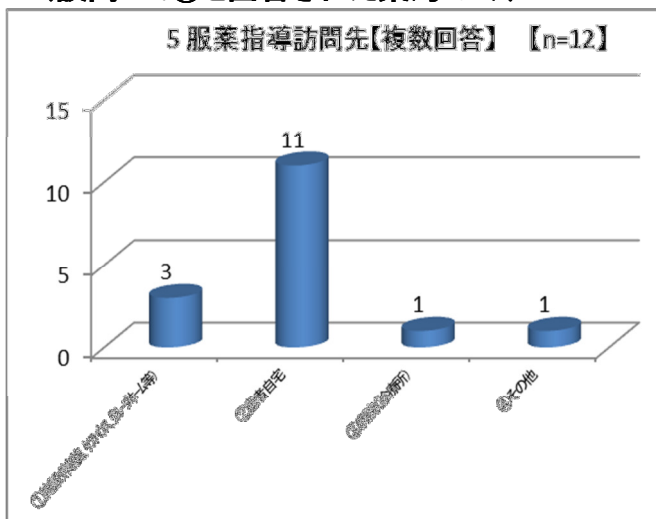
在宅医療に対するイメージについて、「思う」(「①そう思う」+「②少しそう思う」)が、「8. 家族の介護負担が大きい」54 件(100%)、「13. 今後在宅医療は推進すべきである」48 件(88.9%)、「4. 在宅医療に従事する薬剤師の時間的拘束の負担が大きい」46 件(85.2%)と多かった。

4 在宅の実施状況(保険請求の有無に関わらず)



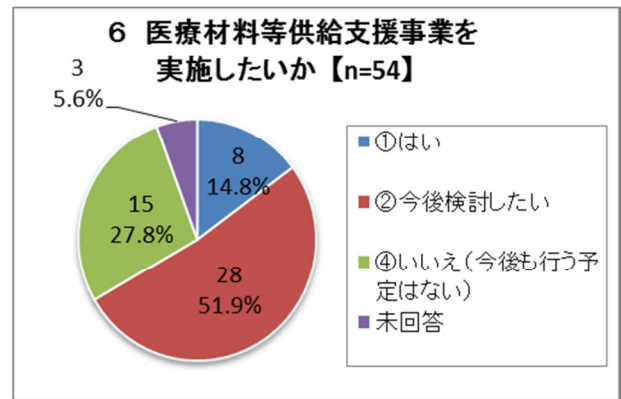
在宅の実施状況については、「①実施している」「②依頼があれば実施可能」が19件(35.2%)、「③今後行う予定」22件(40.7%)であった。

5 服薬指導実施している訪問先(設問4で①と回答された薬局のみ)



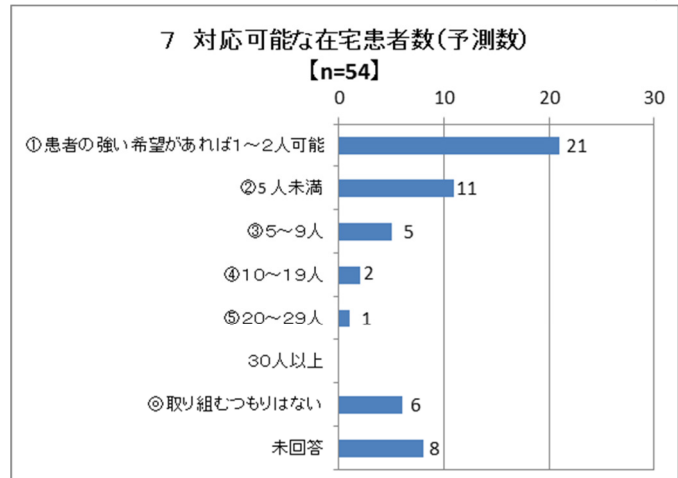
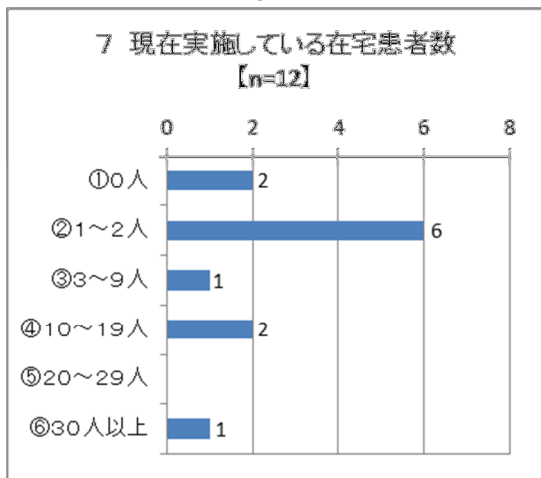
服薬指導の訪問先としては、「②患者自宅」が11件(91.7%)と最も多かった。

6 医療材料等



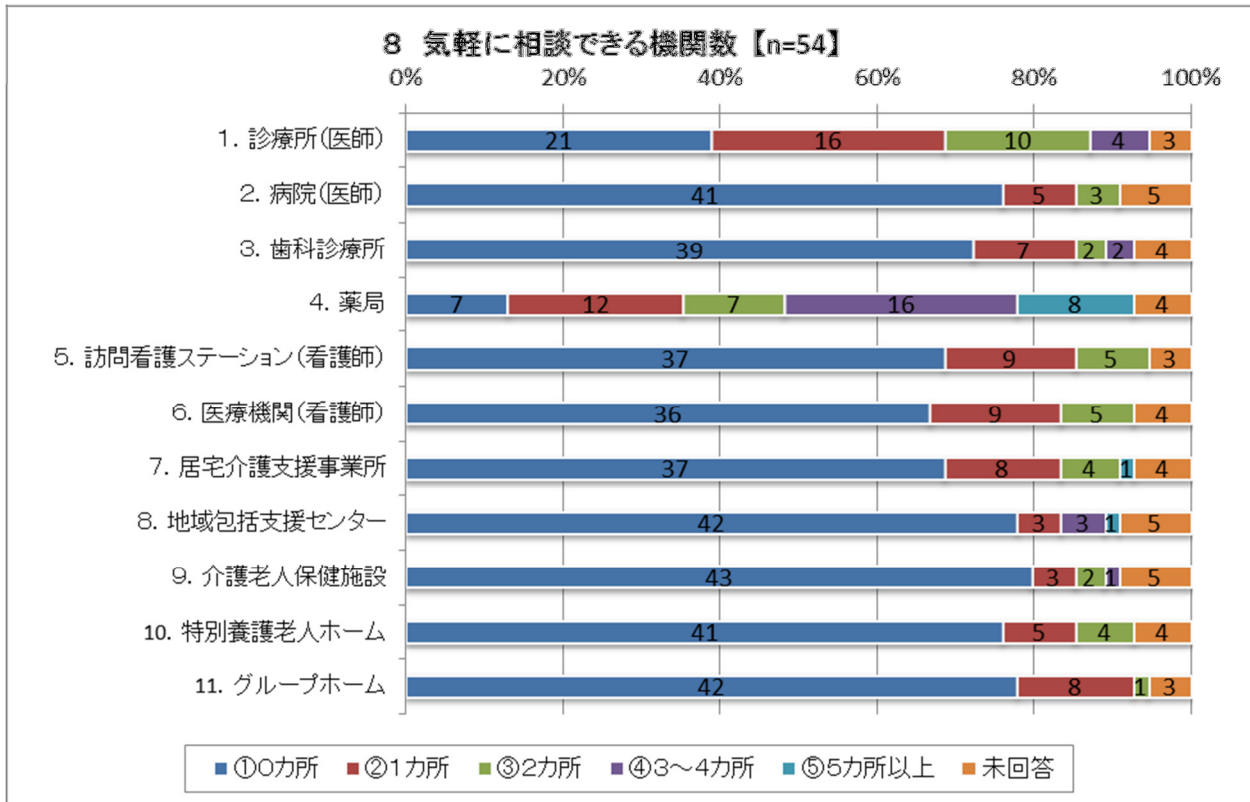
「①実施したい」「②今後検討したい」を合わせると36件(66.7%)であった。

7 在宅で服薬指導を行っている患者数、及び現体制のままで1ヶ月間に対応可能な患者数



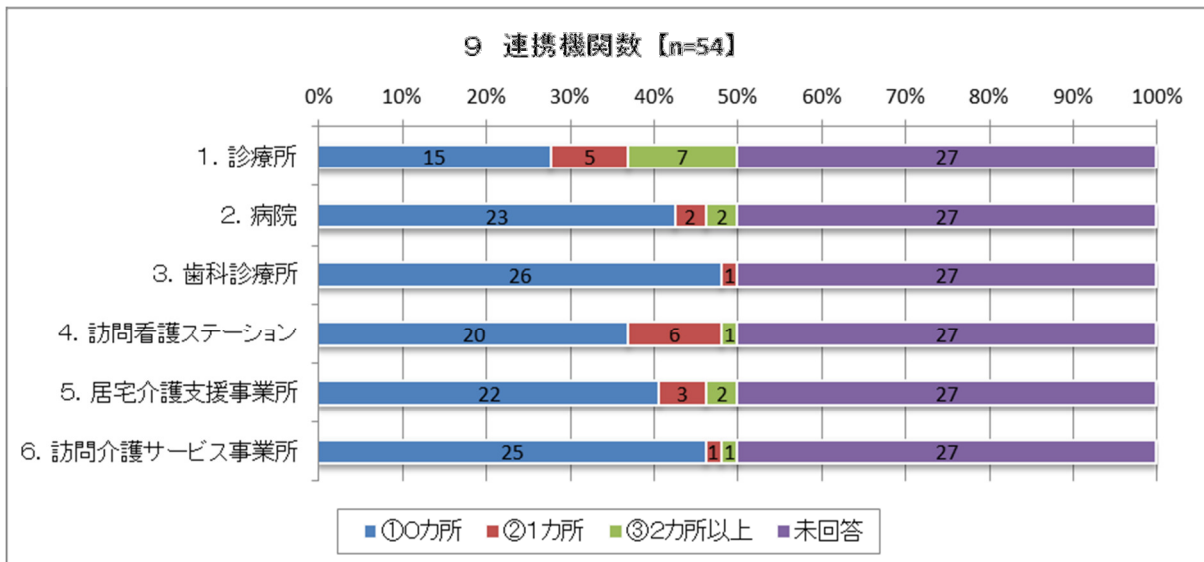
現在服薬指導を行っている患者数は、「②1~2人」が6件(50.0%)と最も多かった。対応可能な患者数は、「①1~2人可能」が21件(38.9%)が最も多かった。

8 気軽に相談できる連携機関



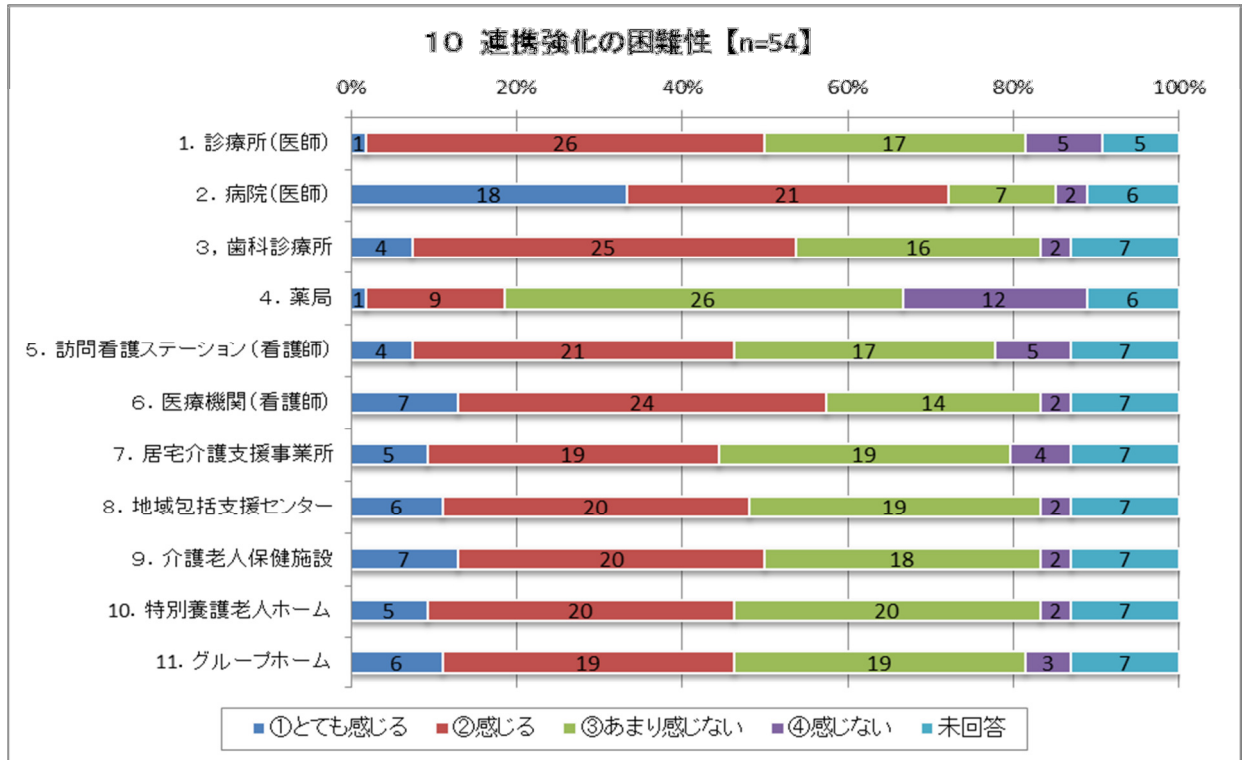
気軽に相談できる連携機関数について、「1カ所以上連携している」は「4.薬局」が43件(79.6%)と最も多く、ついで「1.診療所(医師)」が30件(55.6%)と多かった。

9 連携機関



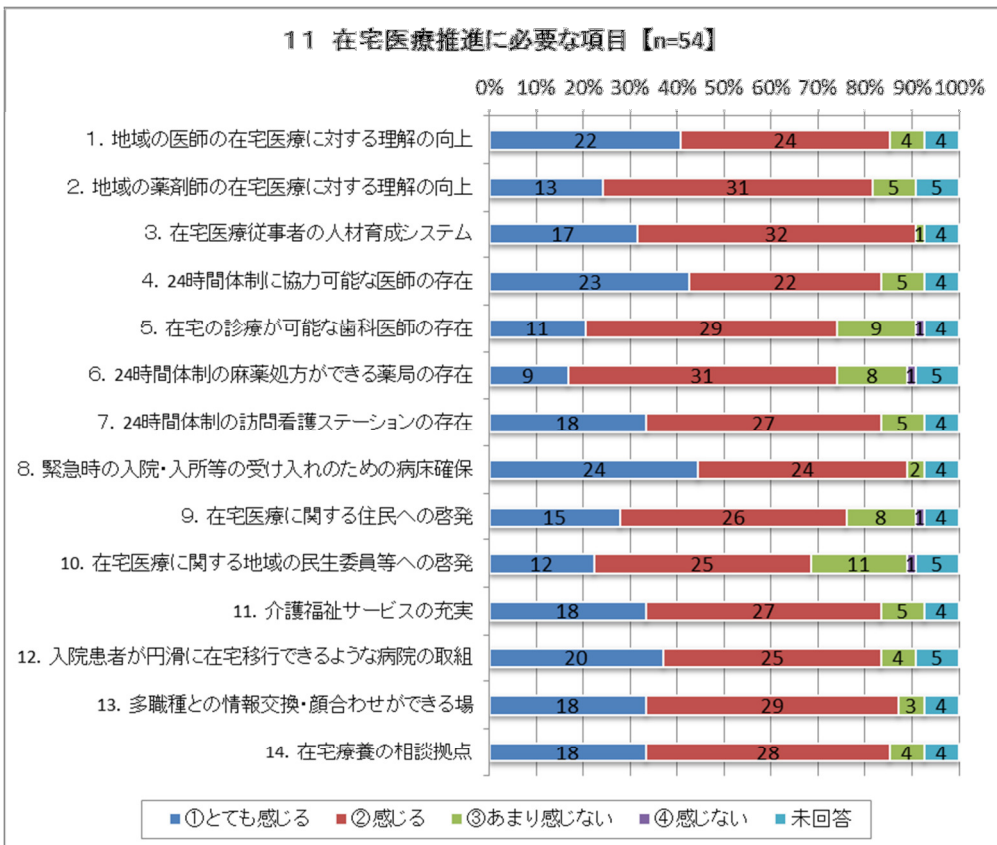
在宅医療を実施するにあたって連携している機関数について、「1.診療所」が「②1カ所」「③2カ所以上」とあわせて回答した薬局が12件(22.2%)と多かった。

10 連携強化が困難な機関



連携強化の困難性について、「2.病院(医師)」と連携困難を「感じる」(「①とても感じる」+「②感じる」)が39件(72.2%)と最も多かった。

11 在宅医療推進のための必要項目



在宅医療推進のための必要項目について、「3.在宅医療従事者の人材育成システム」を必要と「感じる」(「①とても感じる」+「②感じる」)が49件(90.7%)と最も多く、ついで「8.緊急時の入院・入所等の受け入れのための病床確保」が48件(88.9%)と多かった。

12 在宅医療についてのご意見

| |
|---|
| セミナーなどを日、祝日に実施してほしい。 |
| 在宅医療についての関心はありますが、現在当薬局に勤務する薬剤師の事情から実施することは困難な状況です。 |
| 在宅薬剤管理指導を以前より行っていますが、進めていきたいのですが、医師、家族の理解、紹介があればと思います。自分から捜して進めていっている現状でかなりたいへんです。時間も人力も・・・ |
| 現時点では全ての負担が大きすぎる。 |
| 現在は行っておりませんが、今後薬局として取り組む必要があると感じています。具体的にどのような行動を起こす必要があるか、イメージできていません。また、勤務している薬剤師も勉強不足だと感じています。 |
| 薬局では患家に出むいて薬の整理や一包化実施で服薬がきちり出来る様すでに在宅へ足を運んでいる例が多いが、それが居宅療養管理指導に結びつかない例が多い。他職種への理解と連携がこれからはまず大切だと思います。 |
| 薬剤師数が増加し人的資源が十分に確保される時代において、在宅医療の貢献が我々の新たな使命と感じております。 |
| 現在、外来の日常業務が忙しく、在宅へと行く薬剤師が確保できない状況にあります。薬剤師不足をまず解決しないと前進できないと感じます。 |